

『中国人の頭の中』

青樹 明子 著

9月17日発売 新潮社 定価700円（税別） 新書判 192頁

ごめんなさい、日本が好きになりました。

中国生活20年の著者が、現代中国人の屈折に迫る！

「抗日戦争勝利70周年」で盛り上がる中国。しかし、徹底した反日教育と量産される「抗日ドラマ」にもかかわらず、実際に日本を訪れた中国人の大半は日本を好きになってしまう。一方、来日の機会などない庶民にとって日本は「邪悪な日本兵」の国でしかないが、そんな彼らも日本製品は大好きだ。いったい中国人は、日本と日本人についてどう考えているのか——。悪しきステレオタイプと、安心・安全への憧れの間で揺れる姿を活写する。

我愛、おまわりさん／「美しい日本人」の登場／異形の巨大メディア／過激化する反日デモ／不満分子のストレス発散／歪んでしまった歴史の真実／「我々の愛国教育って何だ？」／大震災が伝えた真実／日本製品への憧れと信頼／買って買って、買いまくる／タダの煙草とタダの豚肉スープ／中国人とアルバイト／それでも日系企業に入りたい／教科書はドラマとアニメ／反日デモより日本食（目次より）

【著者紹介】

あおき・あきこ 愛知県生まれ。早稲田大学文学部卒、同大学院アジア太平洋研究科修了。北京師範大学などへの留学を経て、中国各地のラジオ局で日本語番組のプロデューサー・MCを務める。著書に『「小皇帝」世代の中国』など、訳書に『上海、かたつむりの家』。